

ひくまの : 浜松医科大学附属図書館報. No. 61

メタデータ	言語: jpn 出版者: 浜松医科大学附属図書館 公開日: 2018-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜松医科大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003390

ひくまの

Hamamatsu University School of Medicine
Library Bulletin

Dec, 2011

[http:// www.hama-med.ac.jp/toshokan.html](http://www.hama-med.ac.jp/toshokan.html)

目 次

・ 図書館はシンボル	人類学教授 佐藤 弘明	1
・ 教養系推薦図書『青の物理学』について	物理学准教授 西尾 卓広	3
・ 本学教員著作寄贈図書		4
・ シリーズ 二次資料の使い方		5
・ 平成23年度教養系図書リスト		7
・ 附属図書館でインターンシップ実施		8
・ トピックス		
UpToDate 検索について		8
外国雑誌の電子ジャーナルへの一部移行		8
静岡県医療機関図書室連絡会定例会・研修会の開催		9
図書館蔵書の見直しをしています		9
・ お知らせ		9
・ 図書館ギャラリーからご案内		10

図書館はシンボル

総合人間科学・人類学 教授 佐藤 弘明

実のところ、私は図書館が苦手であった。図書館の広報誌にこんなことを書くのは不謹慎だと思うが、二度とない機会なので許していただく。

なぜ、苦手なのか、あまり考えたことはなかったが、きっと、狭くて、暗く、湿っぽいイメージが強かったのだろう。おまけに、椅子が固く、座り心地もよくないというイメージもあった。さらに言えば、結構な人数がいるにもかかわらずシンと静まりかえる緊張感も私にはだめだったように思う。高校生のころ、友人たちが受験勉強のために高校近くの県立図書館によく行っていたが、私にはまったくその気は起らなかった。私は行儀が悪く、受験勉強といえどもだらしなく椅子の中で居眠りするし、机に足をのせて本を読んだり、考え事をするのがふつうであった。さすがの私もそんな格好が図書館でできるとも思わ

なかったし、できたとしてもそんな姿を見られたくもなかった。そもそも隣に誰かがいてよくも平気で勉強ができるものだと友人たちに感心したものである。隣に座っているのが女の子なら私なら勉強が手につかなかったであろう。今になって考えてみると、彼らも勉強ではなくてきっと他の魂胆があったのだろう。もう一つ、図書館を避けていた理由がある。私は、たいていの場合寝そべて本を読む。とても他人には見せられたものではないが、机があっても家ではざぶとんをまくらに横になる。子どもの頃からそうしてきたように思う。したがって、私には図書館は本を借りるところで読むところではなかった。残念ながら今まで寝そべて本が読める図書館は見たことがない。あれば、ひょっとしたら苦手な図書館も好きになっていたかもしれない。

そんな私でも、大学の図書館はこの40年の間、私にとってはなくてはならないものであった。私が勤めていた前大学の学部には私の専門分野がなく、学術雑誌や専門書は自分で購入するか、あるいは、本部の大学図書館で探すしか術はなかった。しかし、本部と私の学部は離れていて実際には使おうにも使えなかった。しかし、あるときから希望の雑誌のタイトルコンテンツを配布してもらえるようになり、文献探索は容易になった。それに連れて、文献複写不可の回答も少なくなってきた。浜松医大に赴任してからも医学部ゆえに学術雑誌、専門書については前の大学とあまり変わらなかったが、不可欠な雑誌や専門書はそろえてもらえたり、文献複写もスピードアップし、依頼したものはほとんど入手出来るようになった。しかも、ありがたいことに近年では、研究室に居ながらにして文献探索ができ、コピーも出来るようになった。このように振り返ってみると、たしかに、図書館の蔵書を直接利用することは少なかったが、大学図書館が私には不可欠なものであったことは疑いない。大学図書館の有用性、機能の広大さを今更ながら思い知る。ただし、本当に私にとって必要で実際に有用であったものは、文献探索のシステムや、それにたずさわる人であったということができよう。私が35年間何とか教育研究に従事することができたのは、これらの業務に従事する方々の援助があったればこそで、この場を借りて御礼申し上げたい。ともあれ、インターネットの発達により私の足は近年ますます図書館から遠のくことになった。実際、この10年間、図書館に入館した回数は会議を除けば、年に数回あるかないかであっただろう。そんな数少ない入館時には、たとえ、会議であっても今でも若干の緊張を感じる。やはり、いまだに私は図書館が苦手なようである。

このような私に言う資格はないし、説得力もないのだが、インターネットが隆盛の現代でも、大学の図書館は学内のどんな建物よりも立派なものでなければならぬと思っている。図書館を見て、すばらしい、こんなすばらしい図書館を持っているくらいだからこの大学はさぞや優秀な大学なのであろう、と人々に思わせるくらい立派なものでなければならぬ。近年の大学図書館の業務は、一見、建物など不要に思えるIT関連分野が増えていることは間違いない。そのような時代に立派な建物なぞ時代錯誤であると言う向きは多いであろう。しかし、そのような業務も人は必要である。設置する器具、機械も少なくないし、しかも、徹底した環境管理を要する。蔵書も学問の府の図書館であるならば、それなりの質と量をそろえておかねばならない。また、図書館は多様で大勢の人が利用する。知識、学問のことなら何でもそろっている、無ければ、ただちに探してくれる、入りやすく心地よく居れる、という図書館は贅沢であろうか。建造物はいつの時代でも、どこでも、シンボルであった。図書館は大学のシンボルとしてもっともふさわしい。

近々、私は大学を卒業する予定である。無事に卒業なったときには、卒業生として勇気を振りしぼって医大図書館に入館させてもらおうと思っている。そして、将来、静かだが明るく湿っぽくない大学のシンボルにふさわしい図書館が完成し、疲れるとコーヒーが味わえるテラスで目を休め、暖かい晴れた日には木陰で寝そべて本が読める日が来ることを切に願っている。

推薦図書『青の物理学』について

総合人間科学・物理学 准教授 西尾卓広

米国のSF作家レイ・ブラッドベリの『火星年代記』(小笠原豊樹訳、ハヤカワ文庫 1976(昭和51)年発行、2010年に新版が出ている)を最近浜松市立図書館から借りきて読んだ。「SF文学史上に輝く永遠の記念塔!」とされるこの作品には、火星から地球は緑色に見えるものとして書いてある。原著は1950年の出版だから、「地球は青かった」のガガーリンの人類初の宇宙飛行(1961年、旧ソ連)はもちろん、スプートニク1号(史上初の人工衛星、1957年)よりも前のことで、地球が宇宙から何色に見えるか分からなかったのだろう。緑色としてあるのは、「緑の地球」といった言い方はもっと近年のものに思えるが、出版当時一般にそう考えられていたのか、それともブラッドベリの「当てずっぽう」なのか。

最近の学生は高校で教わるそうだが、私が初めて空の青い理由の説明を聞いたのは大学(理学部)の講義だったと思う。散乱強度が波長の4乗に反比例する「レイリー散乱」で空の青さと夕焼けの赤さを説明できるという話に、それまでそんなことを考えたこともなかったから、きょとんとしてしまったことを覚えている。そして、その説明が、古典物理学的なものだったからかも知れないが、意外に単純なものに思えた。

そうは言っても、散乱の主体は空気中の塵や水蒸気なのか窒素や酸素の分子そのものなのか?とか、波長の4乗に反比例するならもっと紫っぽく見えるはずではないか?とか、雲が白く見えるのはなぜか?とか、いろいろ疑問が湧いてくる。以前は考えたこともなかったのに、疑問の塊になってしまった。ちなみに、火星では、空は赤く夕焼けは青い!

これらの問題に興味のある向きには、佐藤文隆(宇宙物理学)の近年の著書、たとえば『光と風景の物理』(岩波講座物理の世界)(*1)などに、上の疑問も含めいろいろ論じられている。また光の散乱については、『ファインマン物理学Ⅱ 光熱波動』(ファインマン[ほか]著、富山小太郎訳、岩波書店)(*2)に比較的読みやすい説明がある。

今年度推薦図書の一冊に選んだ『青の物理学』(ピーター・ベジック著、青木薫訳、佐藤文隆解説、岩波書店 2011年発行、原題は“Sky in a Bottle”)(*3)は、副題に「空色の謎をめぐる思索」とあり、青空の解明の歴史を古代ギリシアから20世紀までたどった、数式は出てこない縦書きの本である。著者は、肩書きに「作家・音楽家・科学者・教師」とあり、ピアニストとしても活躍する多才な人のようである。

古代ギリシアや古代中国に始まる前史は長く、ダ・ヴィンチやデカルト、ゲーテも登場するが、空はなぜあのような色をしているのか、そして空の光はなぜ偏光しているのかという二つの謎は、1862年の時点で「気象学における最大の未解決問題」(英国の天文学者ジョン・ハーシェル)とされていたという。レイリー(英国の物理学者、1904年ノーベル物理学賞)の「答」はこの後になるわけで、チンダル現象に名を残す同時代の物理学者チンダルの、「瓶のなかに空をつくる」実験を理論的に基礎づけようとしたのだそうだ。(付録に、簡単にできる実験の紹介がある。)

当たり前のようだが、レイリー散乱は、ヤングの実験で示された光の波動説やマクスウェルの電磁気理論などを前提にしている、原子論の立場からはアボガドロ数の算出と結びつき、話はアインシュタインのブラウン運動の理論やペランの実験、そして原子論の確立へとつながっていく。だからこの本の著者がいうには、「空に目を向けるとき、わたしたちは原子論の正しさを証明する証拠のうち、もっとも美しいものを見ているといえよう」というわけである。ただ、青空を美しいと思うのは地球に暮らすヒトの適応の結果で、火星なら火星の空の色の方を美しいと感じるのではないかと私は思う。

新刊リストから「当てずっぽう」で選んだ推薦図書だが、身近な現象と科学史をつないで、楽しめる本だった。空の青さ、あるいは夕焼けが気になるようなら一読されたい。

- (*1) 『光と風景の物理』(佐藤文隆著、岩波講座物理の世界)
附属図書館所蔵 1階一般図書【資料ID:00010051892/請求記号:420||02】
- (*2) 『ファインマン物理学Ⅱ 光熱波動』(ファインマン[ほか]著、富山小太郎訳、岩波書店)
附属図書館所蔵 1階一般図書【資料ID:00011811850,00011811851/請求記号:420.8||FE】
- (*3) 『青の物理学』(ピーター・ペジック著、青木薫訳、佐藤文隆解説、岩波書店)
附属図書館所蔵 2階おすすめ資料コーナー【資料ID:00010110935/請求記号:402||11】

本学教員著作寄贈図書（受入順、敬称略）

平成23年度に本学教員から寄贈のあった図書は次のとおりです。
ご恵贈ありがとうございました。

2011年 4月～11月

1. 『ことばの意味と使用：日英語のダイナミズム』

ISBN：9784902455250

著者：澤田治美，高見健一編；中安美奈子分担執筆

出版社：鳳書房

寄贈者：総合人間科学講座 英語 中安美奈子

2. 『歴史語用論入門：過去のコミュニケーションを復元する』

ISBN：9784469213317

著者：高田博行 [ほか] 編；中安美奈子分担訳

出版社：大修館書店

寄贈者：総合人間科学講座 英語 中安美奈子

3. 『バセドウ病治療ガイドライン2011』

ISBN：9784524263219

編者：日本甲状腺学会

出版社：南江堂

寄贈者：内科学第二講座 中村浩淑

☆著作物をご寄贈ください。

先生方におかれましては自著作物等を出版されました際にはぜひ図書館にご寄贈ください。

広く利用させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

シリーズ 二次資料の使い方

CiNii (サイニイ) がリニューアルされました

国内の学術論文検索データベース「CiNii」が新たな機能を加えてリニューアルされました。
 図書館ホームページ情報検索の「CiNii」(http://ci.nii.ac.jp/) からアクセスしてください。

☆新たに追加された点

- ・「CiNii Books」が新設され、大学図書館が所蔵する図書や雑誌の検索ができるようになりました。従来の論文検索は「CiNii Articles」で検索します。
- ・著者の検索が直接でき、情報が詳細になりました。
- ・CiNiiに掲載されているPDFの論文を対象に全文検索が可能になりました。

トップページ画面

検索目的に応じてタブ「論文検索」、「著者検索」、「大学図書館の本をさがす」の検索画面を切り替えます。

1. 図書の検索「CiNii Books」

「大学図書館の本をさがす」をクリックすると「CiNii Books」画面に切り替わります。



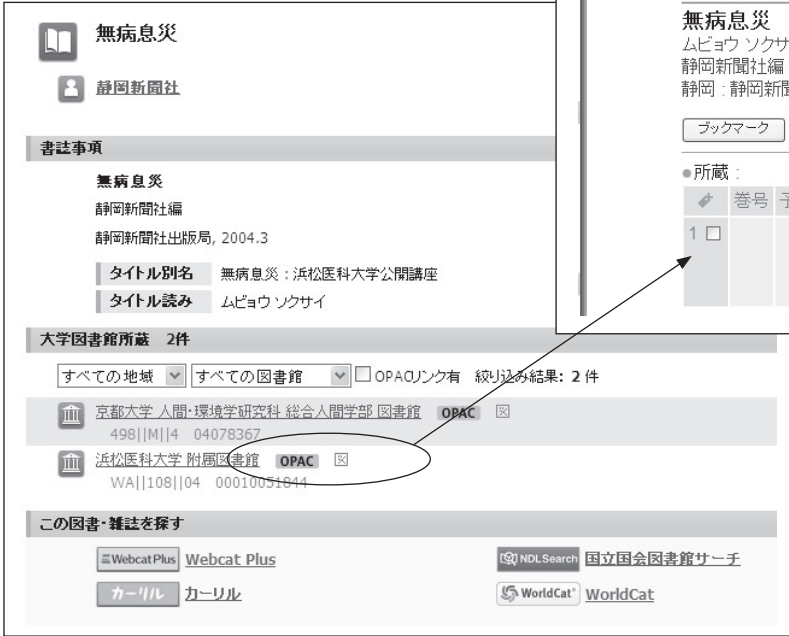
詳細検索画面

詳細検索では、タイトルや著者名の検索のほか、資料種別（図書、雑誌、視聴覚など）言語、出版年、地域別（関東、東海など）項目での絞り込みの限定ができます。



検索結果画面

緑色の「OPAC」をクリックすると大学の蔵書検索画面が表示され、所蔵情報がダイレクトにわかるようになりました。



本学のOPAC画面

外部情報と直接リンクが張られており、クリックするとさらに詳しい情報が出てきます。

Webcat Plusとのリンク …… 図書の目次・画像情報などがわかります。

国立国会図書館とのリンク … 公共図書館の所蔵状況がわかります。

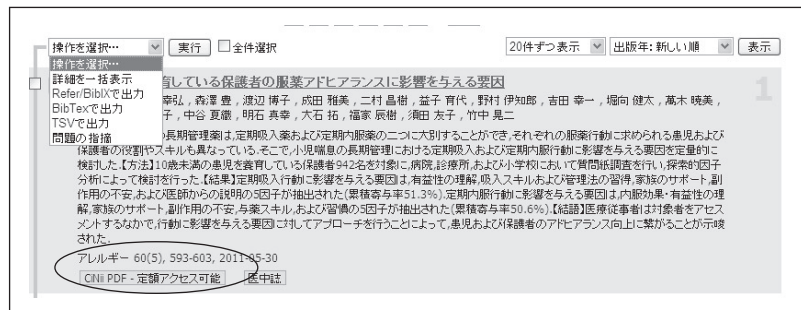
2. 著者検索

著書情報とともに「CiNii」に記載されている著者の資料の一覧が出てきます。研究者リゾルバー、Google Scholar等の外部ともリンクされています。

3. 全文検索 (beta)

全文検索ではCiNiiに記載されているPDF化された論文の検索ができます。

「CiNii PDF」をクリックすると全文が閲覧できます。「操作を選択・・・」をプルダウンすると詳細画面の一括表示、いろいろな文献管理形式の指定ができるようになっています。



機能が多彩になった「CiNii」をご利用ください。

(情報サービス係)

平成23年度 教養系図書リスト

おすすめ資料コーナーに展示中です。ぜひ、ご利用ください。

NO	書名等
1	平家の群像:物語から史実へ
2	源平合戦の虚像を剥ぐ:治承・寿永内乱史研究
3	らくらく読める源氏物語
4	らくらく読める平家物語
5	瀬戸内寂聴の源氏物語
6	英語で診療:辞書なしで分かる!
7	Norwegian wood
8	ポテト・スープが大好きな猫
9	世界で一番の贈りもの
10	大学生になったら洋書を読もう:楽しみながら英語力アップ!
11	英語で上手に質問する:聞き上手になるために
12	英語で明確に説明する 基礎編
13	論理的な英語が書ける本
14	僕たちは世界を変えることができない。:But, we wanna build a school in Cambodia
15	海外でクリニックに行く前に(英語で診療:辞書なしで分かる!:(続)
16	ポーランド:ポーランド語(ここ以外のどこかへ!。旅の指さし会話帳:58;ヨーロッパ13)
17	ライフサイエンス(理系たまごシリーズ:11。世界で活躍する理工系研究者を目指して。科学技術英語徹底トレーニング)
18	生命と情報の倫理:『新スタートレック』に人間を学ぶ
19	数学ガール
20	フェルマーの最終定理(数学ガール)
21	ゲーデルの不完全性定理(数学ガール)
22	乱択アルゴリズム(数学ガール)
23	エレガントな問題解決:柔軟な発想を引き出すセンスと技
24	虚数の情緒:中学生からの全方位独学法
25	刑務所図書館の人びと:ハーバードを出て司書になった男の日記
26	ガリレオの迷宮:自然は数学の言語で書かれているか?
27	ビッグバンをつくりだせ:新型加速器:リニアコライダーが宇宙誕生の瞬間に迫る
28	大気を変える錬金術:ハーバー、ボッシュと化学の世紀
29	なぜ科学を語ってすれ違うのか:ソーカル事件を超えて
30	ベンジャミン・フランクリン、アメリカ人になる

NO	書名等
31	「知識人」の誕生:1880-1900
32	青の物理学:空色の謎をめぐる思索
33	The logic of scientific discovery;pbk (Routledge classics)
34	“環境問題のウソ”のウソ
35	もしかしたら、遺伝子のせい!?:魚臭くなる病ほか遺伝子にまつわる話
36	かぜの科学:もともと身近な病の生態
37	妻を帽子とまちがえた男
38	マラケシュの質化石:進化論の回廊をさまよう科学者たち上
39	マラケシュの質化石:進化論の回廊をさまよう科学者たち下
40	三陸海岸大津波
41	だから失敗は起こる
42	君たちはどう生きるか
43	安部英医師「薬害エイズ」事件の真実:誤った責任追及の構図
44	名張毒ブドウ酒殺人事件:六人目の犠牲者
45	津波と原発
46	隣りの女:新装版
47	あ・うん:新装版
48	阿修羅のごとく
49	ブラック・ジャック 1-17巻
50	リスクに背を向ける日本人
51	街場の中国論 増補版
52	封印作品の闇:キャンディ・キャンディからオバQまで
53	封印作品の謎:ウルトラセブンからブラック・ジャックまで
54	マンガでわかる有機化学:結合と反応のふしぎから環境にやさしい化合物まで
55	般若心経のころ(松原泰道全集:1)
56	禅のころ(松原泰道全集:2)
57	釈尊のころ(松原泰道全集:3)
58	仏教のころ(松原泰道全集:4)
59	法華経のころ(松原泰道全集:5)
60	観音経のころ(松原泰道全集:6)
61	ストーリーとしての競争戦略:優れた戦略の条件
62	成熟日本への進路:「成長論」から「分配論」へ

附属図書館で筑波大生のインターンシップを実施！

附属図書館では、去る7月11日から29日にかけて、筑波大学の要請を受け、知識情報・図書館学類3年生の神永亜季さんのインターンシップを実施しました。

インターンシップは14日間に渡って行われ、開館準備（清掃、当日の新聞の配架・整理）、貸出やレファレンス・サービス等の利用者対応、図書や雑誌の受入・データ登録・装備補助、学術機関リポジトリのコンテンツ登録、文献複写等の相互貸借、配架調整、企画展示の準備作業といった図書館業務全般に取り組んでもらいました。将来の仕事として大学図書館を志望している神永さんは、今回のインターンシップを、進路を決める上での最重要のもの、と位置づけ、職員の指導を受けながら、一つ一つの業務に熱心に取り組み、疑問点等について毎日のように質問するほどでした。



実習最終日には、館長と図書館職員を前にインターンシップの総括を題材としたプレゼンテーションを実施、自らが考えた附属図書館の改善提案もあり、職員への啓発にもなりました。神永さんは「大学図書館で働きたいという気持ちがより強いものになりました」との感想を後日届けてくれました。短い期間ではありましたが、神永さんの将来にプラスになる機会を提供できたことを一同喜んでおります。

(学術情報課)

トピックス

UpToDate 検索が日本語で検索できるようになりました

臨床用電子教科書「UpToDate」が日本語で検索できます。日本語で入力すると翻訳された検索結果が出てきます。わかりやすく、使いやすくなりましたので、ぜひご利用ください。

トピックス

外国雑誌の冊子体購読から 電子ジャーナルへの一部移行について

図書館購読の外国雑誌について、書架の狭隘化の対策、利用者の利便性向上を図るため、2012年から一部タイトルについて、冊子体から電子ジャーナルへ移行しますので、図書館ホームページの電子ジャーナルからご利用ください。



静岡県医療機関図書室連絡会定例会・研修会を開催

去る6月7日、本学において、第25回静岡県医療機関図書室連絡会定例会・研修会が開催され、27機関33名が出席しました。定例会では、平成23年度の活動計画や予算、機関紙『ぶくとらっく』の投稿規程などについて協議したほか、東日本大震災における大学図書館の被害状況報告があり、研修会では、山崎むつみ氏（静岡県がんセンター医学図書館）による「PubMed もう一度足元確認！－上級編！なんていう前に・・・」と黒澤俊典氏（NPO医学中央雑誌刊行会電子出版課）による「医中誌Web Ver.5について」と題した2講演が行われました。山崎氏からは、ご自身が参加されている「診療ガイドライン」作成に関するPubMedの検索作業に主眼を置き、PubMedを検索する際に知っておくべき検索の基本やMeshなどのチェック・ポイント、検索に有用なインターネット上のツール等について詳しく説明がありました。黒澤氏からは、大幅にバージョンアップされて4月にリリースされた「医中誌Web Ver.5」について、インターフェースの紹介やシソーラス検索など、新しい機能と改善点を中心に解説していただきました。医学図書館には必要不可欠なデータベースの検索に関する知識、利用法について丁寧な解説をしていただき、参加者のスキルアップにつながる有用な研修となりました。

本学が事務局を務める静岡県医療機関図書室連絡会は、1980(昭和55)年に県西部医療機関図書室懇話会として発足しました。1987(昭和62)年に現在の名称に改称、現在は静岡県内の大学図書館や病院図書室等の医療機関図書室39機関で構成されています。年1回の定例会のほか、年2回の研修会開催と機関誌の発行を主な活動として、病院図書室と大学図書館とが連携し、情報の交換や相互協力を推進することにより、医療機関図書室の改善や職員の資質の向上を図っています。



図書館蔵書の見直しをしています

1974(昭和49)年に開学して以来、歳月をかけ蔵書を構築してまいりました。日進月歩の科学・医学の教育、研究に供するため、できるかぎり最新の資料を収集したいと努力しているところですが、今年度から平成25年度の3ヵ年計画により、大幅な蔵書の見直しをすることになりました。

情報が古くなって更新が必要な資料を各講座等のご協力により、廃棄候補として選定していただき、また、最新有用な資料の推薦をお願いしました。

順次、図書を購入し、配架いたしますので、ぜひご利用ください。

お知らせ

図書館内の資料移動及び1階電動集密書架の撤去について

2012年1月から3月の期間、図書館内において、大幅な図書・製本雑誌等の移動作業及び1階電動集密書架の撤去工事を予定しています。利用者の皆さまにはご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

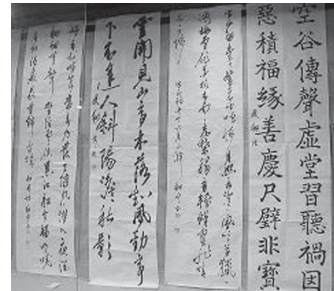
● 図書館ギャラリーからご案内 ●

開催中の展示 H23.11.2～H24.1.31

《本学学生による書道展》 伊藤翔雲・森 慶翔 二人展

※期間中一部作品の入れ替えあり

数々の受賞歴を持つ二人〈医学科生・看護学科生〉の作品展です。幼少からひたむきに取り組んできた様子が窺える素敵な書を展示しています。



本年度、開催した展示 H23.8.1～H23.10.31

《体感型企画》

見てみよう・触れてみよう・感じてみよう
古代エジプトパピルス展

パピルスとはカヤツリグサ科の植物の茎から作られた古代エジプト文明には欠かせない筆記材料でした。ペーパー(紙)の語源ともなっています。

エジプト国内において古代技法により復原された貴重なパピルスに古代エジプト美術の至宝を特殊印刷により再現したもので、パピルス8葉1セットと写真集付で1985年に刊行されました。このパピルスを実際に触っていただけるよう展示いたしました。

(『パピルス=Papyrus』/仁田三夫 撮影/榎ぎょうせい)



《図書館の企画にご参加ください》

【図書館ギャラリー企画展示】

あなたの手で思うように飾って思いっきりPRしてみませんか？

【リクエスト本受付推進企画】

共通して読みたいと願う本、日々の学習や人生の糧として役立つ本などを広告や書店で見つけたらどんどんリクエストしよう！

たくさんの応募をお待ちしています

図書館では、知識教養を高める学習支援はもちろんのこと、明るく有意義な学生生活を送るための支援、日々の活動を公開するさまざまな企画をとおして、もっと身近に・もっと興味のある・もっと気軽に足を運んでいただける開かれた図書館を目指してこれからもいっそう努力していきます。